

授業におけるフィラーの効用について

名前 岡田秀耀 学生番号 23B00309
東京工業大学理学院

1. はじめに

授業が上手い先生は本当にフィラーが少ないのか。またその効能について。

2. 方法

授業で使われるフィラーを数え、フィラーの回数とそれが聞き手に与える印象との関連を考える。永藤(CS2)、よびのりたくみ、河野玄人、林修(敬称略)の四名の15分間分の授業を聞き、それぞれのフィラーの回数(今回は4種類に絞った)をカウントする。

3. 結果

プロの講師は「あの一」と「えーっと」の二つを言った回数が極端に少なかった。よびのり氏は短い「え」が多く、林修氏は「まあ」が多かった。永藤先生はフィラーが多いと思ってカウントしてみたのだが、予想通りほか三人がめったに使わない「あの一」と「えーっと」を多用していた。

表1:

	あの一	その一	えーっと	えー
ながとう	37	1	34	X
よびのり	1	0	0	65
こうげんと	0	0	0	0
はやしおさむ	2	0	0	53

4. 考察

プロ講師は特に「あの一」「えーっと」の二つはおそらく意識的になくしていることが伺えた。また、フィラーは少ないほどいいという考えの下か、河野玄人氏はカット編集によりフィラーを使っているシーンをなくしていることもわかった。

これらのことから、実際に授業を本業としている人たちは「フィラーを減らす」という努力をされていて、実際にその努力が、テンポの良く頭に入ってきやすい授業を生んでいることが簡単に考えられる。

5. おわりに

主にYOUTUBEで授業している人たちは実際にフィラーが少なかった。また、それを極限まで少なくしようとする気骨が、わかりやすい授業につながっているのだ。

文献:

王、茜茜「ゼミナールの発言におけるフィラーの機能:「アノー」と「エート」に注目して